

チャペルの窓 玉ねぎ – 欲望？

貸農園で育てている玉ねぎの収穫は極早生種が3月、そして早生種は、昨日から収穫を始めました。

小学校の時、郷土の歴史で「明治17年、田尻町吉見の今井佐治平、大門久三郎、道浦吉平の三氏がたまねぎ栽培の研究につとめ、明治末には田尻町を中心に90ha程度の栽培があり、国内はもとより、海外にも輸出され泉州たまねぎの名声を博するようになった」ことを習ったように覚えています。そのためか、淡路島の玉ねぎに対抗意識があり、鱧すき等の玉ねぎは泉州産にこだわっています。

玉ねぎは古代から栽培され、エジプトではピラミッドを建設する労働者に食べさせていたとか、建設の報酬として支払われていたという説があり、タマネギを食べる話は、旧約聖書や千夜一夜物語にも記されています。中世ヨーロッパでは、ニンニクと並んで魔よけとされました。14世紀にペストが流行した際、タマネギやニンニクによって伝染を免れた、ということからヨーロッパ全域に広まったといわれています。日本へは、江戸時代に南蛮船によって伝わったといわれていますが、本格的に栽培されるようになったのは、上述のようにアメリカから渡来した品種の栽培に成功した明治時代以降のことです。

ああ、肉が食べたい。エジプトで、ただで魚を食べていたことを思い出す。きゅうりも、すいか、にら、玉ねぎ、にんにくも。だが今や、私たちの喉はからからだ。全く何もなく、このマナを見るだけだ。(民数11:4 後半～5)

マナというのは、神が荒野で、毎日与えて下さっていた食べものです。マナは、朝になると白い霜のように地面を覆いました。人々はそれを集めて、臼で引いたり、ついたりしたものを煮るとそれは、甘いパン菓子のような味がしました。人々が、神が与えてくださったこのマナに不平をいう場面です。そして、一部の人の嘆きは、周りの人々にも広がりました。民たちの嘆く泣き声が宿営に響き渡りました。

この不平不満を言う人民の姿を見ると、自分の内にある欲望を見ているような気がします。欲望は底なしでコントロールしにくいものです。

玉ねぎを料理しながら、感謝していただきたいと思いました。